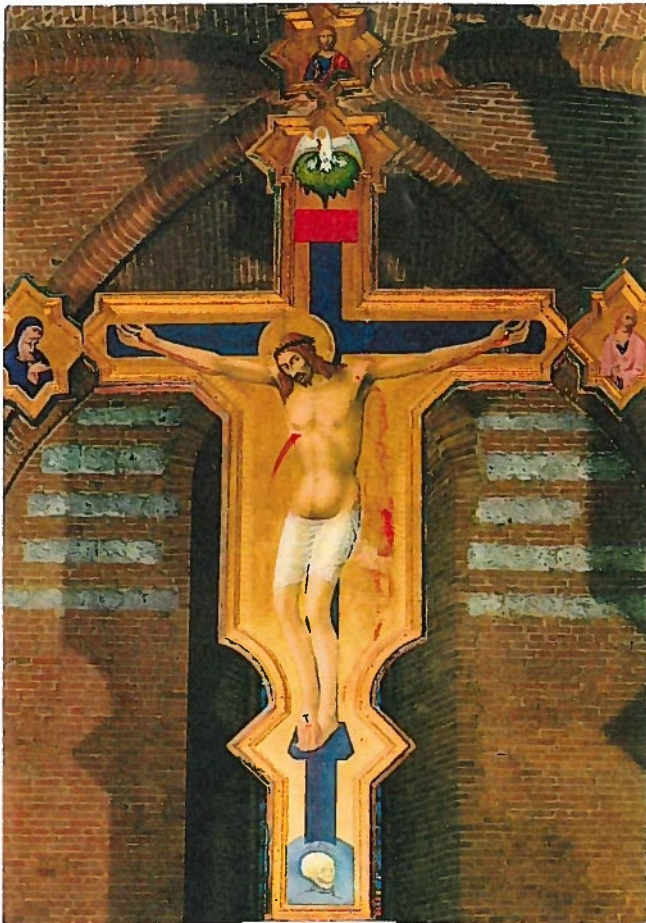


2013年(平成25)9月

カルメル
霊性センターニュース



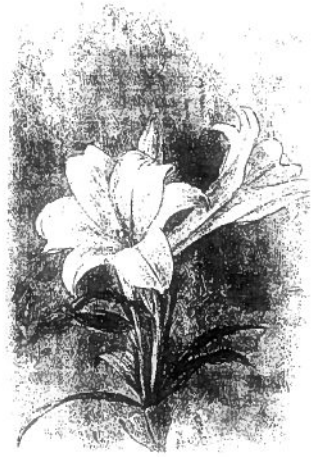
2013年9月

290号

目次

心の泉	1
カルメル会の企画案内	23
諸所の企画案内	37
年間購読(郵送)のご案内	46
編集後記	47

心の泉



DE IMITATIONE CHRISTI
キリストにならう バルバロ訳



第二卷

第一章 内的なまじわり

2 キリストを所有する

忠実な霊魂よ、この花婿に対してあなたの心を備えなさい。そうすれば、花婿はあなたのもとに来て住むであろう。彼は「私を愛する人は私のことばを守る。私たちはその人のもとに行き、そこに住むであろう」(ヨハネ 14・23)と言われる。だからキリストに心を開き、ほかの誰をも迎えてはならない。キリストと一緒になら、あなたは富をもっている。それだけで十分である。彼はあなたのためにすべてをはからい、すべてをもたらすであろう。そうなれば、あなたはもはや人間により頼む必要を感じない。人間の考えは変わりやすく、またすみやかに消え去るものである。しかしキリストだけは永遠にとどまり、私たちの最後の日まで、絶えず力強く守ってくださるであろう。

3 イエスはあなたの平和

弱くてもろい人間を、あまり頼みにしてはならない。あなたに有益な人であっても、愛する人であっても。また、ときどき私たちに逆らい反対する人があっても、そのためにひどく嘆いてはならない。今日あなたの味方になっている人が、明日あなたに逆らうこともあり、その逆の場合もある。なぜなら人間は、風のように変わりやすいものだからである。あなたの信頼を神に置きなさい。そうすれば神があなたの唯一の愛、あなたの唯一のおそれとなるであろう。神は、それ以上は考えられないほどあなたのために語り、あなたの身を案じてくださるのである。「あなたの不朽の住まいはこの世にはない」(アブライ 13・14)。どこにいても、あなたは旅人であり、異邦人である。キリストと密接に一致していないなら、あなたはいつになっても安らぎを知らないであろう。

信仰年に

神と親しく生きるために - 9 -

わたしたちの靈魂はなんと偉大なのでしょう！

過ぎ去るものを超越し、
地上はるかに身を置きましょう。



登れば登るほど 空気は澄んできます！

イエスさまはお隠れになっても

確かにおられるのがわかります。*

～テレーズ～

このページを繰る頃はきっとまだ残暑の厳しい日々が続いていることでしょう。9月には8日マリア様のお誕生日、15日は悲しみの聖母に捧げられた祝日を祝います。29日は大天使たち、ガブリエル、ミカエル、ラファエルの祝日。30日はテレーズの命日（翌日が祝日となります）。「わたしは死ぬのではありません。命に入るのです」と言っていたテレーズ。テレーズのその信仰のまなざしをもって、わたしたちの平凡な生活において「過ぎ去ることのない、変わることのない神の愛」太陽を見つめ続けて日々を生きていくことができますように。「たとえ黒い雲が愛の太陽を隠すようなことがあっても」。*

伊従 信子 (いより のぶこ)

ノートルダム・ド・ヴィ

* 『テレーズの祈り』聖母文庫、聖母の騎士社

子供のようになる

くのり 彰

ある日の午後、上野毛にもどってくる時のこと。二子玉川で、大井町線に乗り換えた。一駅で上野毛下車となる。停車中の電車に乗り、一番後ろの車両へ移ると、数人の小学生の姿が見えた。近づいて行くと、男の子同士でワイワイと、乱暴な言葉をやり取りし、騒いでいる。彼らのそばに行くと、何とその中の一人が、神妙な顔をして「どうぞ」と席を立った。

席をゆずられるのには、いつからか、驚かなくなっていたが、悪ガキの集団だと思い込んでいたので、少しびっくりしながら、「ありがとう、次ぎ降りるからいいよ」と答える。少し気まずい沈黙となる。と今度は、別の男の子が「アッ！後ろが空いてる！」と叫んだ。見ると、確かに私の後ろの席が一人分空いている。今度は、断るのも悪いと思い、そこに坐る。左隣は大人であったが、右隣は、彼らの仲間。「何年生？」と聞くと、「一年生！」という答えが返ってきた。

学校でお年寄りが来たら、席をゆずるように指導されているのだろうか。「行儀の悪い悪ガキたち」と決めつけていたこちらが、恥ずかしくなった。大人が考える以上に、子供たちはまだ柔らかな無垢の心を持っていることに気づかされ、イエスさまの言葉が思い起こされた。

そのとき、弟子たちがイエスのところに来て、「いったいだれが、天の国でいちばん偉いのでしょうか」と言った。イエスは一人の子供を呼び寄せ、彼らの中に立たせて、言われた。「はっきり言うておく。心入れ替えて子供のようにならなければ、決して天の国に入ることはできない。自分を低くして、この子供のようになる人が、天の国でいちばん偉いのだ。」。(マタ 18・1-4)

大人は誰が一番偉いかを絶えず問題にする。地位や名誉や富がそこに集中してくるからであろう。そこで激しい競争意識が生じ、優越感・劣等感を持つようになる。子供は、幼ければ幼いほど、そのような意識から、解放されている。コンプレックスに悩まされることもない。神に出会っているととも言える。だが、主の言われるように、だれでも「子どものようになる」なら、天の国は、いつどこにもあるのだ。大人は、大人であるがゆえに、自ら天の門を閉ざしている。

年間第22主日 (C)

みことばのひびき

(ルカ 14:1. 7-14)

「だれでも高ぶる者は低くされ、へりくだる者は高められる。」

福音のこの箇所では、イエスは謙そんについて教えるために、地位の高いファリサイ派の人と食卓を共にすることを利用しています。榮譽と恥について社会的な観念により規制されている文化では、人々は榮譽を得、恥を避けようと張り合いました。誰といつしよに食事をするか、食卓のどこに坐るか、どのように食べるか、このようなことが全て重要な社会的意味を持っていました。そのため、人は食事のとき最も榮譽ある場所である主人に一番近い席につこうとしました。先に坐っていたのに榮譽ある席を別の人に譲って、より劣る席につかなければならないことになるのは最悪のことです。

福音は、完全な社会でありキリストのメッセージの到着点である神の王国をしばしば宴席として描いています。宴席は分かち合いの機会であり、いつしよにいる喜びの機会です。一人ひとりにとって利用できることがたくさんありますし、全ての人が等しい分け前を持っています。一人の人の必要のために十分あり、それ以上あります。ここでイエスは弟子たちに誰かに招かれたとき客が食卓でつく場所について教えています。一般的には、一番高名な人が最高の榮譽を受ける主人の右側に坐ります。二番目に重要な客は主人の左側に坐ります。イエスはこの決まりを知っていましたが、社会的な礼儀作法の教えをしませんでした。イエスは、神の国では榮譽はどのように認められるかということに注意をひくために、食卓でのよいマナーのお手本を用いました。主人が客を食卓のより高い場所に招き入れることを指摘するとき、主は何かほかのことを言っています。食卓に客が参列できるのは神からの招待によります。そして報酬は、より高く上がるのを一番価値が低いと語る神ご自身に似た者になることです。

この譬え話はまずはファリサイ人に向けられています。全ての人への教訓です。謙そんなキリストに従う高慢な人は、言葉の上でまったく矛盾しています。キリストが私たちのために奴隷になるほどご自分を低くされたことを聖パウロははっきり語っています。キリストは馬小屋で生まれ、ナザレという人目につかない村で育ち、普通の大工として生計をたて、公生活の間はご自分の家を持たず、遂には二人の盗賊の間で十字架上で死に、借りた墓に葬られました。私は心柔和で謙そんであるから私から学びなさいと、キリストははっきり言われました。本日の福音で、高ぶる者は低くされると語っているのはイエス様です。イエスの王国に居るためには、人は主のように謙そんできなければなりません。イエスは弟子たちに言われます。謙そんは神のイメージとしての尊厳と一致していなければなりません。イエスはまた謙そんに対するこの教訓を、招待のお返しのできる人を招いてお返しを当てにしない主人に当てはめています。この招待は神がなさるようであればなりません。宗教上の階級や身分の区別なく全ての人を助け、このようにして神の報酬に値するものでなければなりません。

(Sr. Paulina)

「造り上げるのに十分な費用があるかどうか、まず腰をすえて計算しない者がいるだろうか」(肋 14, 28)。

今日の福音は、エルサレムに先頭に立って向って行かれるイエス、そのイエスが振り向いて、ついてくる大勢の群衆に言われた長いお言葉です。この言葉は、A-B-Aのサンドイッチ構造になっていることに気がきます。前半には、「もし、だれかがわたしのもとに来るとしても、父、母、妻、子供、兄弟、姉妹を、さらに自分の命であろうとも、これを憎まないなら、わたしの弟子ではありえない。自分の十字架を背負ってついてくる者でなければ、だれであれ、わたしの弟子ではありえない」との厳しい指摘があり、これに呼応する後半には、「だから、同じように、自分の持ち物を一切捨てないならば、あなたがたのだけ一人としてわたしの弟子ではありえない」と、弟子であることに堅忍するために必須の徹底的放棄が求められています。これは、普通のサンドイッチなら柔らかいパンの部分に相当するのですが、柔らかいとは到底言えない、固い厳しい要求です。そして、ハム、あるいはカツに相当する真ん中に挟まれているものは、何事か大きな事業に着手しようとする二人、塔を建築しようとする人、また、戦いを布告しようとする王の態度です。塔の建築は不可避のものではなかったようですし、戦いも、和平交渉の余地のないものではありませんでした。他方、わたしたちが直面させられるものは、イエスの弟子であることと言う、趣味的なもの、余剰のもの、避けて通れるものではありません。成功する、勝つ見込みがないから、辞めたと言えるものではありません。イエスの弟子であることは、必死に追い求めてゆくべきものです。しかし、それは、自分の能力、才能で賄いきれるものでしょうか。これは、無理なことです。イエスの弟子であることは、自分の能力、可能性をはるかに凌駕するもっと大きな深い力によって活性化される必要を認めなければなりません。その力とは、十字架の上でイエスがわたしたちに獲得してくださった聖霊、神の憐れみの愛の賜物です。福音の使徒パウロは書いています。「もし神がわたしたちの味方であるならば、だれがわたしたちに敵対できますか。・・・わたしたちを愛してくださるかたによって輝かしい勝利を収めています」(ローマ 8, 31.37)。イエスの十字架の死に結晶する神の愛の深さをこそ、「腰をすえて計算する」べきものなのではないでしょうか。むしろ、自分自身の限界、弱さに直面し、自分の持ち物一切を剥奪されるときにこそ、謙虚に自分の至らなさを認め、わたしたちの「虚無」の中に注がれている神の愛を思い起こすべきなのです。 ルカ 渡辺幹夫

年間第24主日 (C)

(ルカ 15:1-32)

“このように、一人の罪人が悔い改めれば、神の天使たちの間に喜びがある”

ルカは記しています。徴税人や罪人たちがこぞってイエスの話を聞こうと集まってきたのを見て、ファリサイ派の人々や律法学者たちは、“この人は罪人たちを迎えて、食事まで一緒にしている”と非難し、イエスを陥れる機会を狙っていたことを。イエスが喩え話によって神の慈しみと愛を特別に知らせたかったのはこれらの宗教的な指導者たちでした。イエスの罪人たちに対する温かな眼差し、親しい交わりに不満を言ったとき、彼らに、このような世に受け入れられない人たちを特に深く心に留める、神の無限の愛を思い起こしてほしいと思われたからです。この愛である神は、一匹のいなくなった羊を必死に探し求める羊飼いに、またなくした銀貨を夢中になって見つけようとする女の人に、そしていなくなっていた息子の無事をただひたすら喜ぶお父さんに譬えられています。失った悲しみの中でそれが見つかったときの喜びは譬えようもありません。友達や近所の人々を招いて盛大な祝宴を開き喜びを分かち合います。放蕩息子の喩え話はルカ福音書にだけ見られるものです。“放蕩”と訳されている”prodigal”という言葉は、途方もない、考えられないような言動を意味します。弟の考えられないような浪費の生活と、お父さんの二人の息子に対する途方もなく大きな深い愛情を表現するための言葉です。自分の行いを心から悔い改めた弟は、イエスの周りに集まる徴税人や罪人を、また弟の過ちを赦すこと出来ない兄は、常に自分を正しい者と思い込み他人の非を暴いていくファリサイ派の人々や律法学者たちを代表する人物かもしれません。

この喩え話は、この途方もなくやさしいお父さんの姿を描くことによって、神のうちに秘められた無限の愛と慈しみをわたしたちの心に染み透らせます。父から受け継いだ財産のすべてをふしだらな生活で使い果たした弟息子はやっと自分の非に気づき、心から悔い改めて待ちわびていた父の腕の中に戻ってきます。父の喜び！父は盛大な祝宴を開いて息子の無事の帰還を祝います。いつも忠実に仕えていた兄には理解できません。今までに一度もこのようにして貰ったことがない、と。父は、自分のものは全部兄のものであることをやさしく説き明し、いなくなっていた弟が戻ってきたことを、また以前のように神の愛の御腕の中にあることを共に喜んでほしいと懇願します。

私たちも、この喩え話を日々思い起こし、度々神の慈しみと愛に包まれている自分に気付いて行く必要があります。神から与えられている賜物、贈り物のどれほど多くを浪費していることでしょうか！それなのに神から見放されてしまった！とさえ感じてしまう私たちです。神は赦しとそれに伴う恵みをいつも差し出してくださっています。自分の罪、不完全さ、愛の足りなさに気づき心からの赦しを願うならば、慈しみと愛の聖体祭儀の食卓で私たちを待っていてくださる神を見出すでしょう。

心を調べてみましょう：兄弟姉妹たちの不忠実な行いを赦し、再び喜んで迎え入れていませんか？赦しの秘跡を大切にしていますか？

(Sr. Paulina)

「どうでしょうか。……そうだ。こうしよう」(路 16, 3. 4.)。

「どうでしょうか。……そうだ。こうしよう。管理の仕事をやめさせられても、自分を家に迎えてくれるような者たちを作ればいいのだ」。管理人は、自分が陥るのが眼に見えている苦境を前にして、「どうでしょうか」と必死に回避方法を考え、思いを集中します。その時、「そうだ。こうしよう」と名案が天からの天啓のように閃く。こんな体験はだれにもあるものではないでしょう。諺にも、「火事場の馬鹿力」と言います、苦境に陥ると、奇跡的に上から与えられなくても、自分の中から平常ではでてこない力、能力が湧き出てくる、思いもかけない妙案を思いつく。今日のたとえで、主人がほめた不正な管理人の抜け目のないやり方とは、この集中力、必死に考えることで、普段には気付かないで見過ごしていた解決方法を見出した、それほど真剣に自分の能力を一点に集中した、この真剣さへの賞賛ではないでしょうか。特に、今日の福音のたとえ話では、隣人の主人への負債を軽減することで自分の苦境をも解決する方法を、思いついたのですが。この解決の発見に瞬時に到達できるのではないかもしれませんが、ある期間は、その悩み胸に抱き、悩み、考え続けてゆく、これも必要かもしれません。集中力だけではなく、このあきらめないで持続する力も大切なものでしょう。ここで頭に浮かぶのは、イエスの受肉の知らせに接したナザレのマリアの態度です。「マリアはこれらの出来事をすべて心に納めて、思い巡らしていた」(路 2, 19)。イエスの秘義、イエスにおいて成就されてゆく神の救いの計画の全貌を、マリアも瞬時に判ったのではないようです。神の計らいは、人間の知恵に分かりきれない、そこで、分からないからと言って捨ててしまうのではなく、その前に立ち止まり、真摯に「心に納めて、思い巡らしてゆく」、マリアのような信仰者の態度、そして、その時がくれば、秘密の全貌を悟ることが許されるとの希望の内に生きる態度、イエスがほめる信仰者の心の構えです。さて、今日の福音は、わたしたちが置かれている恵みの現状を真剣に把握し、その今まではなかった新しさを意識し、その新しさに合致して生きているのか、このわたしたちの生き方を吟味するようにと促すものです。わたしたちに任されている「主人の財産」とは何か。それは、イエスの十字架の上での死によって獲得された豊かな賜物、聖霊です。聖霊の導きが、わたしたちの真剣さの中に開いてくださる新しい知恵の展望、世の富には愚かと見えるものがあります。「あなたたちは、神と富とに仕えることはできない」。ルカ 渡辺幹夫

年間第26主日(C)

みことばのひびき

「アブラハムは言った『子よ、思い出してみるがよい。お前は生きている間に良いものをもらっていたがラザロは反対に悪いものをもらっていた。』」 (ルカ16:19-31)

年間第6主日に、典礼は私たちに金持ちのドアの前に坐っている貧しいラザロの譬え話を示しています。この譬え話は、イエス様の時代の社会的状況を映し出すだけでなく、現代の社会をも映し出す忠実な鏡です。本日の福音の中心に二つの点があります：永遠の命と貧しい人への思いやりの心です。もちろん、信仰と洗礼が永遠の命への道です。しかし同時に、私たちがお互いに対するやり方、特に私たちの中にある最も貧しい人に対するやり方は、救いにとって一番重要です。

慈善団体にお金を出すのもよいことですが、天の御父は単に小切手を書く以上のものを期待しておられます。御父は、貧しい人を心の中に喜んで迎え入れる人、この譬え話の金持ちの人がしなかったことをする人を捜していらっしゃいます。御父は、金持ちや満足している人たちに対するのと同じ尊厳と心くばりをもって貧しい人たちをも扱う人を捜していらっしゃいます。

イエス様は、私たちの信仰が個人的なものではないことを示すためにこの譬え話をなさいました。神の子どもとして、私たちは皆、同じ家族のメンバーです。金持ちでも貧しくても、私たちは皆お互いに等しい愛、思いやり、尊厳を持っています。

私たちの使命は、お互いのためにキリストになることです。それは迷っている人々、霊的に迷っている人々、悲嘆や心配、麻薬常習、または辛さに迷っている人々を救うことです。それは、神の愛のために飢えている人々に食べ物を与えること、次の食事がどこから来るかわからない人々に食べ物を与えることです。それは天の家に遠い人たち宿を与えること、住むに家のない人々に宿を与えることです。手短かに言えば、私たちの使命はちょうどイエス様が私たちのために命を投げうってくださったように、私たちの兄弟や姉妹たちのために命を投げうつことです。

ですから、イエス様が私たちに求めていらっしゃるような教会になりましょう。与える人になることで、私たちの信仰に行動を加えていきましょう。神は、私たちが自分の時間やお金、心をより自由に与えれば与えるほど、より多くのお恵みがあると約束されます。

祈りましょう、「イエス様、あなたの愛と思いやりの心を私に与えてください。私の全ての兄弟、姉妹たちに対して寛容になれるようにお教えください。」

(Sr. Paulina)

十字架の聖ヨハネ こぼれ話 (72)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

説教しない方が良い

他の説教者に関する他の出来事。

今回は、バエサの副学院長——聖人（訳注：十字架の聖ヨハネのこと）は学院長——であった聖ペトロのガスパル神父のことです。

このガスパル修士は、善良な人々の説教者でした。聖人は、彼を何度かウベダへ、説教のために遣わしました。人々は、彼にとっても満足していたので、「大祭日」のミサに彼を頼み、約束までしてしまいました。けれども聖人は、正当な許可を願うことなしに、彼が自分勝手にその願いを承諾したことをよしとせず、彼をウベダに行かせず、代わりに司祭を送りました。

しばらくしてから、ヨハネ修士はベアスへ行きましたが、ガスパル神父を連れて行きました。聖人が修道女たちの告解を聞いている間、彼は、何人かの修道女たちと話をし、最近起きたことに対する彼の気持ちを伝えました。

修道女たちは、その後、聖人にそのことを話しました。聖人は、きっぱりと答えました。

「自分の意志で説教する者は、説教しない方が良いのです。たとえ残念に思えても、苦行（屈辱を受けること）の方が彼にはもっと有益となることでしょう。この神父であれ他の神父であれ、同じように修道女たちを取り扱うなら、この世で苦行できることは幸運であると彼女たちに言いなさい。私たちの間で行わねばならない真の苦行を、お互いに提供し合うために」。



ヘンリ・ナーウエンの 旅路の糧（168）



霊的生活への窓

情緒的生活と霊的生活は、別個のものであるにせよ、それらはお互いに深く影響し合っています。私たちの感情は、しばしば霊的旅路への窓となるのです。ねたみの心を捨て去ることができない時、私たちの内で「アッパ、父よ」と叫ぶ聖霊に、私たちは接触しているのかもしれませんが。私たちがとても平和で「集中している」と感じている時、これは私たちが愛されていることを深く意識しているしるしであると、悟ることになるかもしれません。

同様に、私たちの内に現存する聖霊に誠実に応えていく祈りの生活は、私たちの情緒や感情や情熱の窓を開き、神の心の中へ入っていく私たちの長い旅路において、それらをどのように奉仕させるべきかを示してくれることでしよう。

(0727)

私たちの精神と心を集中すること

人や出来事によって散漫となっていく衝動を心の中に強く感じている時、私たちはどのようにして孤独にとどまることができるのでしょうか。もっとも簡単な方法は、私たちの精神と心を、神を思い起こさせるような言葉やご絵に集中させることです。「主はわたしの牧者、私とはぼしいことがない」という言葉を静かに繰り返すことによって、あるいはイエスのイコンを愛をもって眺めることによって、私たちは、落ち着かない精神を落ち着かせ、神のやさしい現存を体験することができるのです。

これは一晩でできることではありません。忠実な実践が求められます。けれども、私たちが毎日、ほんの少しの時間、神と共にいることに費やす時、際限のない私たち散漫は、徐々に消えてゆくことでしよう。

(0817)

(九里 彰訳)

先の号に続いて今回も訃報に思いを致す記述となりました。

7月19日の新聞紙上で、作家高橋たか子氏の逝去を知りました。人生にあってさまざまな形をもって親しくなじんだ人たちが、次々と天国へと旅立ってしまい、この頃では身の周りはすうすうとすき間だらけで寒いようになり、寂しさは限りありません。12日心不全のため死去した。81歳だった。と新聞の活字を追いながら、神さま、とうとう高橋たか子のみもとへとお呼び寄せになったのですね。今だったのですねと静かな深々とした感情の高ぶりに揺すられました。

本箱に並ぶ20冊ほどの著書を、眺め、見つめ、触り、棚から引き抜き箱から出して頁を開き、また箱に入れて棚に戻すと、くり返しくり返して暫くは時間を忘れていました。

高橋氏の本が初めて出版されたのが、私の受洗と時を同じくしていました。40年も前のことです。年齢は高橋氏が5年上、カトリック受洗は私が4年早かったこととなります。以来、幼稚な拙い読み手ではありますが、格別の愛着をもって接してきました。小説のファンであると同時に、神との出会いに焦がれる同志のような気持ちを身勝手に抱いていたのです。

知的な観念的な作品、作家として知られ、数多の文学賞に輝いていますが、私はそこにある求道の激しさに心惹かれました。空の彼方からやってくるとしか思えない激しい衝迫を、純な素直さでひたむきに受けとる幼子のような氏の魂に、深い共感を寄せています。

作品は、初期のものが断然好きです。

魂の深淵、暗闇、孤独、渴望、焦躁、憧憬、探究、執念、……罪。神が、ひとり子を差し出されずにはいられなかった人間のいのちの悲しみが、通奏低音のように響き、描き出される一見虚無とも思えるその世界にこそ、神のまなざし、神の御手を、ひしひしと感じるのです。読みながら、私自身も魂を打ち砕かれ、空の彼方へと押し展げられる思いでした。

本箱からは、結局デビュー作「空の果てまで」と「ロンリーウーマン」をとり出してきて一心に読み耽りました。

氏へのオマージュであり、哀悼の祈りをこめた40年ぶりの再読となりました。「空の果てまで」に現れる空の描写の何という数の多さでしょう。何という印象の深さでしょう。「名づけようもないもので、満たされることだけを望んでいるものがございます。」「誰も彼もが立っている地面が、こん

なにも斜面になっているのがわからないの？」 作中人物の苦しい魂の叫びの中に、苦しい生の営みの中に、空はあらゆる様相で常に真上に存在していることを、今回も痛苦の中に味わいました。

二冊を一息に読み終え、涙がこみ上げました。高橋氏の魂が、涙の谷から主のみもとへと過ぎ越されるさまが、あたかも目に見えるようであったのです。

フランスの修道会に入会され、後に退会され、帰国されてからはカルメル会に入られ、その後出られたりとも聞き及んで、氏の私生活での消息にも関心を寄せていました。私は参加できなかったのですが、上野毛の修道院にも足を運ばれ、会合を持たれたことがあったと記憶しています。小説家としての感受性、誠実さ、信仰者としての感受性、誠実さ、その緊張と苦しみを、長年の読者として思い察しています。

少女時代の高橋氏は、文学少女でなく音楽少女であったそうです。「私の一生を音楽というものが貫いている」と言われます。殊に、人生の重なりと信仰の深まりとにつれて、バッハのコラールに傾倒されていたようで、フランスの誰もいない修道院で、独りパイプオルガンを弾かれた時のことを「どこか遠くから誰かが呼んでいるような音が出る。呼んでいるものに耳を傾けて弾くのだ」と書かれていて、読みながらその呼び声が私の耳にもきこえてくるような気がしたことを思い出します。

高橋氏の弾くコラールを聴いてみたかったです。

夢みる人と夢みる人の夢の結婚だったというご自身の結婚。高橋和巳氏との実に42年ぶりの天国での再会、そしてこよなく敬愛されていた埴谷雄高氏遠藤周作氏との再会は、一体どんなだったのでしょうか。

追悼文の終わりにこれは蛇足かもしれませんが、高橋氏夫妻のお墓は富士霊園とか。富士霊園のカルメル家族墓苑に骨を置く予定の私にとっては、これはちょっぴりうれしいおまけのような蛇の足です。

高橋たか子さま—— ありがとうございます。

喜びに満ち溢れる「よきおとずれ」をこれからも形を変えて此処に送ってください。

†高橋たか子さまに 永遠のやすらぎを——

随想：ミラノの奇跡

60 数年前、テレビもまだ無い時代には映画は身近な娯楽の一つでした。今でも鮮明に覚えている映画が在ります。「自転車泥棒」で知られるイタリアの監督ビットリア・デシーカの作品「ミラノの奇跡(1951年製作)」です。

キャベツ畑でロロッタ婆さんに拾われた孤児は、トトと名付けられ育てられますが、彼女が亡くなり、成人するまで孤児院で育てられます。善良で底抜けに明るく育った青年トトは、やがてミラノの街外れの広場に貧しい人々と共に掘立小屋の集落を創ります。ところが広場に石油が噴き出すという事件が起きました。これを機に集落の人の裏切りが生じ、利権を企てる資産家の私兵による接收が始まります。天から降りて来たロロッタ婆さんの霊は、すべての望みを叶える天の鳩を与え、トトはこの鳩を使って急場を救うのです。ところが、鳩のことを知った住民は、個人的な望みをぶつけて来るようになり、トトはそれを拒めません。傍らで心配し続けたのは、彼に思いを寄せるエドウィジェという娘でした。天使は広場の住民のこの乱脈ぶりを見て、鳩を取り返していきます。そして私兵は広場になだれ込み、住民はトトと共に監獄馬車に押し込められてしまいます。馬車がミラノの大聖堂の前を通り掛かった時、ロロッタ婆さんの霊とエドウィジェはやっと鳩を取戻し、トトに手渡します。住民たちは馬車から逃れ、市街清掃作業員の帚(ほうき)に打乗り、善良さがそのまま通用する理想の国へ向かって、空高く飛び去って行ったのです。

映画好きの母に手を引かれ観に行った、スクリーンに繰り広げられる幻想的な物語は、字幕の文字のよく分からない幼い私の心を捉えました。断片的ではありますが、このファンタジックな物語は、今でもコンテで描けそうに鮮明な映像として生き続けています……………。



どんよりと曇った空の下にひろがる広場の遠くには、真新しい四角い積み木のような建物の並ぶ建設現場が見えます。そして広場には、ボロを身にまとった住民が群がっています。と、雲の切れ目に一筋の陽の光の束がスポットライトのように灯りました。その大きな丸い陽溜りの中に住民が急いで群がります。暫くすると陽溜りは別の場所に移動し、それを追うように人々の群れが、ざわざわと素早く移動していきました。きっと、寒さから暖をとるためなのでしょう。いつもニコニコと挨拶するトトは皆の人気者です。脚の不自由な人や、子供の背丈ほどしかない人を見掛けてすれ違う時には、彼らと同じような動きをしながら、明るく挨拶を交わすのです。石油が噴き出す事件の後、資産家の私兵が広場の脇の高台に現れます。隊長の声高な号令は、トトの鳩によってソプラノの歌声に変わり、統制が乱れてしまいました。その様子を観て、鳩に願いをかけると叶えられる事を知った住民は、次々と望みを打ち明けに来る様になります。毛皮のコートにシルクハットを叶えられた老人は、今までと一変し背筋を伸ばして威風堂々とした態度に変わりました。バレシューズを履けた踊り子は、鳥のように跳ねています。そして、黒人白人同士の恋人は、それぞれ別々に人目を忍んで訪ね来て、相手の肌の色に変えて欲しいと告げます。二人はその願いが叶い、喜び急いで逢いに行きますと、肌の色が互いに相手の色に入れ替わったことに驚くのです……。そうした、印象に残るモノクロの映像が、目をとじると甦ります。

40年程前、ミラノに立寄った折に大聖堂を訪れました。生憎、補修工事の為に外周がシートで覆われて、あのゴシック様式の建物を観る事は出来ませんでした。でも、トトたちが帚(ほうき)に乗って飛んで行く有様が懐かしく目に浮かびました。人には普段気づかぬままに、過ぎ去った日の出来事が、一瞬の間に甦ることがあると思います。何故か今、強く、トトの世界が、私の身近に感じられてなりません……。

天野郁生

いのちの言葉 8月

自分を愛してくれる人を愛したところで、あなたがたにどんな恵みがあるか。
罪人でも、愛してくれる人を愛している。

(ルカ 6・32)

今月のいのちの言葉はルカ福音書の一節で、イエスの教えが長く綴られている箇所（マタイ福音書では山上の垂訓にあたる内容）に見出されます。よく知られているように、イエスはここで、神の国に入るための条件と、そこに属する人たちの特徴を語っておられます。彼らは、天の父に倣って生きる人たちです。

この箇所でイエスは、愛することによって御父に倣うよう、弟子たちを招いておられます。もし私たちが御父の子どもでありたいなら、御父と同じ愛で隣人を愛さなければなりません。

自分を愛してくれる人を愛したところで、あなたがたにどんな恵みがあるか。
罪人でも、愛してくれる人を愛している。

御父の愛の第一の特徴は、無償であることで、それは世の中の愛とは根本的に異なります。世の愛が、自分の好みや見返りを基盤とする（自分を愛してくれる人や自分が気に入っている人を愛する）のに対し、天の父の愛は自分のことをまったく考えない愛です。御父は、人から答えが返って来るか否かに関わらず、ご自身を与えて愛されます。それは、自分が持っているものを全て与え、自分から先に一步を踏み出す愛、何かを築き、新たに変えていく愛です。天の父は、私たちが善良で、精神的にも立派で、注目と愛を受けるに値するから、私たちが愛してくださるものではありません。むしろその逆です。御父は私たちが愛しながら、恵みを通して、私たちの内に良いもの、霊的に美しいものを生み出してください、ご自分の友、子どもとしてくださるのです。

自分を愛してくれる人を愛したところで、あなたがたにどんな恵みがあるか。
罪人でも、愛してくれる人を愛している。

御父の愛のもう一つの特徴は、普遍的であることです。神は全ての人を分け隔てなく愛されます。その愛には、限界も尺度もありません。

御父の愛は、あらゆる渇きと空虚を満たすものであるからこそ、無償の愛、いのちを与える愛だと言えるでしょう。

それゆえ天の父は、ご自分から離れて行った恩知らずで反抗的な子どもたちを愛され、そのような人たちに特に心を寄せられるのです。

自分を愛してくれる人を愛したところで、あなたがたにどんな恵みがあるのか。罪人でも、愛してくれる人を愛している。

では、今月のいのちの言葉をどう実践できるでしょうか。

私たちが天の父の真の子どもとして生きましょう。御父の愛に倣うこと、特に「見返りを考えない」「普遍的である」という、その愛の特徴に倣うことです。自分から先に一步を踏み出しましょう。寛大で揺るぎない愛、全ての人に開かれた愛、特に、空しさを抱えるまわりの人々の心を満たしていく愛を持ちましょう。結果を気にせずに愛してみましょう。自分が神様からいただいた才能や恵みを分かち合いながら、神様の恩恵を伝える道具となるよう努めましょう。

イエスのこのみ言葉に導かれて生きるなら、私たちは、傍らを通り過ぎる人や自分の身に起こる出来事を、新しい目と心で受け止めることができるでしょう。そして家庭や学校、職場や病院など、どこにいても、この神の愛を人々に伝えていきたいと感じるようになるでしょう。イエスが地上にもたらされたこの愛だけが、世を変える力を持っているのです。

キアラ・ルービック

* 今月の言葉は1992年2月に発表されたものです。

★ いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

● お知らせ

いのちの言葉の集い

中部 8月4日(日) 9月1日(日) 14:00~愛知 瀬戸市本郷町東・

喫茶室「游夢」

(週日に、吉祥寺、調布、鷺沼、藤沢、戸塚、厚木、千葉、浦和、鹿沼でも)

* 詳細は各フォロー・ウオッチャーまで。

連絡先

フォコラーレ: 03-3707-4018/03-5370-6424

E-mail: tokyofocfem@ybb.ne.jp

ホームページ: フォコラーレで検索

<http://focolare.world.coocan.jp/>

いのちの言葉 9月

言葉や口先だけではなく、行いをもって誠実に愛し合おう。

(ヨハネの手紙一 3・18)

今月は使徒ヨハネの言葉です。イエスに対する信仰を口では語りながら、行いが伴わない共同体のある人々に、ヨハネは警告しています。これらの人々は、イエスがすでに全てを果たされたと思ひ込み、人の行いは無益で無意味だと考えていました。彼らの信仰は、むなしく実りのないものでした。イエスは、ご自分の救いの業に私たちが寄与するよう求めておられますが、彼らはそれを果たしていなかったからです。

言葉や口先だけではなく、行いをもって誠実に愛し合おう。

行いをもって愛すること。イエスが愛され、私たちに教えられたように、私たちも愛することにより、真の信仰は証しされる、とヨハネは言っています。イエスの愛の第一の特徴は、具体的であることです。イエスは、すばらしい話によって私たちを愛されたのではありませんでした。善を行い、皆を癒し、より弱い人や貧しい人、疎外された人をはじめとして、出会うすべての人に全面的に応え、私たちのためにいのちを与えてくださったのです。

言葉や口先だけではなく、行いをもって誠実に愛し合おう。

使徒ヨハネは、私たちが行いをもって愛するだけでなく、誠実に愛さなければならぬと言っています。キリスト教的な愛は、具体的な行動を取ると同時に、イエスの内に示される愛の真理を基盤とします。イエスの思いと教えに一致した行いをするよう心を配り、イエスが示される方法と尺度によって愛することが必要です。

言葉や口先だけではなく、行いをもって誠実に愛し合おう。

では、今月のいのちの言葉をどのように生きられるでしょうか。メッセージはとてもはっきりしています。イエスが強調されたように、本物のキリスト者であることです。これこそ、世が切に望んでいることではないでしょうか。現代世界は、イエスの愛の証し人を求めているでしょう。

言葉ではなく行いをもって愛しましょう。隣人の必要性に応え、日々の目立たない奉仕から始めてみましょう。

そして、誠実に愛しましょう。イエスはいつも御父のみ旨に従って行動されました。同じように私たちも、いつもイエスのみ言葉に従って行動することです。イエスは、私たちが隣人一人ひとりの内に彼を見るよう望んでおられます。実際イエスは、私たちが隣人にすることを、ご自分にされたこととして受け取られます。そしてイエスは、私たちが自分のように隣人を愛すること、互いにいのちを与える覚悟で愛し合うこと

をお望みです。

私たちも、世の救いのためにイエスの道具となれるよう、このように愛しましょう。

キアラ・ルービック

* 今月の言葉は1988年5月に発表されたものです。

★ いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

み言葉を生きて

私がフォコラーレに出会い、み言葉を生き始めた時のことです。

み言葉の素晴らしさを体験した私は、妹にもこの生き方を知ってほしいと思い、いろいろな形で伝えてみましたが、キリスト教も知らなかった妹は関心を示しませんでした。ある時、「自分と同じように隣人を愛しなさい」というみ言葉を生きながら、私は妹に対して、自分がよいと思うことを押し付けるのではなく（姉という立場もあって、私にはそういう傾向がありました）、妹の身になって、妹が愛されたと感じられるように接する必要があるのを感じました。

小さなことから始めて、日々そのように生きるよう努めてしばらくたったある日、まったく期待しなかった機会に、妹が「キリスト教の洗礼を受けるためにはどうすればいいの？」ときいてきました。

やがて彼女は受洗の恵みを得ましたが、私にとっては、み言葉を「生きる」時に 神様ご自身が働いてくださるのを実感した体験でした。

（東京都・T）

●お知らせ

いのちの言葉の集い

関東 9月8日（日）13：30～ 神奈川 カトリック藤沢教会 204号室

中部 9月1日（日）14：00～ 愛知 瀬戸市本郷町東・喫茶室「游夢」

関西 9月22日（日）13：30～ 大阪 カトリック香里教会

長崎 9月22日（日）14：00～ 長崎 カトリック浦上教会 要理教室

（週日に、吉祥寺、調布、鷺沼、藤沢、戸塚、厚木、千葉、浦和、鹿沼でも）

* 詳細は各フォローレ・センターまで。

連絡先

フォコラーレ：03-3707-4018/03-5370-6424

E-mail:tokyofocfem@ybb.ne.jp

ホームページ：フォコラーレで検索

<http://focolare.world.coocan.jp/>

跣足カルメル修道会HP (International)

世界的な跣足カルメル修道会のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com>



ORDEN
CARMELITAS DESCALZOS
• CURIA GENERAL DEL CARMELO TERESIANO •

<< Communications (時事通信) >>

第2回跣足カルメル会ワールドユースディに一千人の青年たちが参加

2013年8月14日



第二回跣足カルメル会ワールドユースディは、リオ・デ・ジャネイロのワールドユースディに先立ち、現地で開催され、南米と中米から一千人の青年たちが参加しました。イタリアやイベリア半島の国々の若者たちも参加しました。この出会いのテーマは、リジューの聖テレズの言葉、「私は世界を旅して、あなたの御名を告げ知らせたい。」で、このスローガンはこの大会の宣教精神を明らかに示しています。

祈りと音楽と黙想によって彩られたこの大会に、跣足カルメル会のザベリオ・カニストラ総長も参加されました。次の跣足カルメル会ワールドユースディは、二年後、「イエスの聖テレジア生誕500年記念祭」の間にアヴィラで開催されます。

ロスアンデスの聖テレサによる、信仰年を生きる鍵

2013年7月26日 ロスアンデス (チリ) 聖霊修道院発

教皇フランシスコにとっては初めての、リオでのワールドユースディの新しい体制の中で、私たちは、テレジア的カルメルとその全世界の青年たちに、「私たちに与えられた贈り物であるこの信仰年に、ロスアンデスの聖テレサは、私たちに何を語りかけているのだろうか」と問うことができます。

まず第一に、この聖女は、神を愛する女性であり、この愛を他の靈魂に伝えようとした女性であることを、心にはっきりと留めておくべきでしょう。今、彼女は私たちが真に神を愛するために、ひとりひとりにこのことを伝えています。「おお、私は神を愛しています！私は、あなたをこの愛で燃やしたいのです。私があなたを神にさし上げられるなら、何と幸せでしょう。」(手紙、1916年4月15日)

ここから出発して、ロスアンデスの聖テレサは、私たちに四つの非常に具体的な助言を与えてくれています。

第一は、信仰年を利用して、感謝の祭儀に対する信心を成長させることです。教皇ベネディクト16世は自発教令『信仰の門』で、信仰年は、「信仰を典礼の中で、特に感謝の祭儀の中で深く記念するための良い機会となります」と指摘しています。(自発教令『信仰の門』2011年10月11日 9項)

ロスアンデスの聖テレサは、友達の一人に、こう書いています。「あなたの靈魂の目をもって主を仰ぎ見なさい。その美しさを観想しなさい。主の聖心の奥深くまで入りなさい。そこは、あなたへの愛で満たされています。主はあなたに天国と神を永遠にお与えになるために苦しまれたことを、いつも心に思い起こしなさい。感謝の祭儀の中で何度も思いを通してイエスと出会いなさい。親愛なる姉妹よ、主はあなた共にいることを熱く望んでおられます。なぜなら主はあなたを大きな喜びをもって愛され、あなたと結ばれて生きるために、あなたを選ばれたからです」（クララ・ウルスアへの手紙、1919年10月8日）

第二は、信仰と希望をもって、神が今日の教会において聖霊降臨の驚くべき業を新たにされるよう、聖霊に祈ることです。聖女が祈りの中で聞いた「イエスは、私のすべてが聖霊に導かれるよう望むとおっしゃいました（1919年5月の日記）」という言葉のように、私たちが聖霊の光に導かれますように、またその息吹きを受け取れますように。毎日、イエスと結ばれて愛の戦いに打ち勝つ必要な力を願い求めつつ、独りでは何もできなくとも、イエスと一緒に何でも可能であることを確信しながら。

第三は、もっとマリア様と共に行い、もっとマリア様を愛することです。教皇フランシスコは、最近の回勅「信仰の光」において、「時が満ちて神のみ言葉はマリアに告げられ、そのみ言葉が胎内で受肉し、人類の光として生まれるように、マリアは、み言葉をその心と全存在に受け入れられました」（「信仰の光」2013年6月29日 n° 58）。ロスアンデスの聖テレサは、イエスとの関係においてマリア様の中に、従うべき理想的な模範と見出しました。聖女の言葉を私たちのものとしましょう。「私の鏡はマリア様です。私はマリア様の娘にさせていただいたのだとすれば、マリア様によく似るべきであり、それによってイエス様に似る者となるでしょう。」（日記 1915年、n°15）

第四は、イエスのために多くの靈魂を獲得することです。ロスアンデスのテレサの人生は、他者への、すなわち、家族や友人や助けを必要とする人々、そしてカルメルにおいてはすべての靈魂への変わらない使徒的な愛で占められています。新しい福音宣教をめざす信仰年において、教皇フランシスコは、私たちが疎外された人々の所に行き、あらゆる観点から常に貧しい人々を選び取り、彼らの実情に即した使徒的使命を真剣に果たすよう促しています。ロスアンデスのテレサの言葉を私たちのものとし、すべての人をイエスに引きよせるといふ彼女の使命を受け継いでいきましょう。

「すべての靈魂が神を探し求めることに、私は飢え渴いています」（母への手紙104、1919年5月）。彼女はわずか20年の短い人生の中で小さな子供のころからその使命を開始し、今も天国からそれを続けています。何千もの巡礼者がリンコナダ・デ・ロスアンデスの聖地で、彼女を通して、イエスへのとこしえの道に立ち戻りました。また聖女に関するソーシャルネットワークの新しい手段を通じて、バーチャルな巡礼者の数も多数にのぼっています。赦しの秘跡と聖体の秘跡によって、しっかりとイエスに近づいてゆきましょう。



カルメル会の企画案内



上野毛霊性センター ～ '14年3月

黙想企画 ** 聖テレジア修道院 (黙想) **

1. 木曜黙想会 (毎回木曜日10時～16時) 予約は3ヶ月前より受け付けします。

2013年度 年間テーマ 「信仰と宣教」

11月14日 「カルメルにおける宣教」 中川博道神父

12月5日 「神の愚かさ、宣教の愚かさ」 福田正範神父

2014年

2月20日 「復活の主の第一の使信」 福田正範神父

2. 金曜黙想会 (毎回金曜日10時～16時) 予約は3ヶ月前より受け付けします。

2013年

10月4日 「カルメルの霊性・ラウレンシオ修士」 古川利雅神父

2014年

1月24日 「カルメルの霊性・聖母マリア」 福田正範神父

3. 奉獻生活者の為の黙想会

2013年

10月7日(月)18時～10月12日(土) 福田正範神父

12月27日(金)18時～2014年1月5日(日) 古川利雅神父

4. 青年黙想会(男女) 福田正範神父、カルメル会士

2013年

11月2日(土)15時～4日(月・振休)16時

5. 召命黙想会(男女) 福田正範神父、カルメル会士

2013年

9月21日(土)15時～23日(月・休)16時

6. 特別黙想会 伊従信子(ノートルダム・ド・ヴィ)

2013年

11月8日(金)20時～10日(日)16時

7. 祭日のミサに参加するために

【クリスマス】 チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時
2013年12月24日(火)～25日(水) 《講話なし、夕食なし》



電話でのお問い合わせは午前9時から午後4時45分までをお願いします。
またお申し込みは電話でもお受けしますが、間違いを避け、時間も問いません
のでなるべくFAX・はがき・Eメールでお願い致します（お返事はいたします）

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25 聖テレジア修道院（黙想）
TEL 03-5706-7355 / FAX 03-3704-1789 ※FAX 番号が変更されました。
E-mail : mokusou@carmel-monastery.jp



カルメル召命黙想会

主の呼びかけを聴く…

召命 (vocation) とは、一人一人に語られるキリストからの呼びかけ、招きに応えることですが、キリストの声を聴く、呼び掛けを聴くとは一体どういうことなのでしょうか？キリストの声が直接耳に聞こえたのか、それとも何か具体的な出来事を通してその人個人にしか分からない形で示されるのか、それとも具体的な出来事ではなくその人の日常を通して徐々に示されるのか、また、キリストの呼びかけ、招きに対してその人は確信を持っているのか、あるいは、召命があったと確信するのではなく、日々祈りの内に主の呼びかけ、招きを聴き、確かめながら歩むということなのか……。

召命について、神父様方の体験談も交えながら、一人一人の具体的な召命の生き方を深めます。



- 日時 : 9月21日(土) 15時 ~ 23日(月) 13時
 場所 : カルメル会 聖テレジア修道院(黙想)
 対象 : 召命を考えている、独身の青年男女(40歳まで)
 定員 : 20名
 費用 : 一般 10,000円 学生 7,000円
 締切 : 9月14日(土) <必着>
 指導 : 福田正範神父・カルメル会士

※住所・氏名・性別・年齢・電話番号・所属教会名を記入し、ハガキ・FAX・E-mailの何れかで下記まで。折り返し、こちらよりご連絡させていただきます。



158-0093 世田谷区上野毛2-14-25
 カルメル会 聖テレジア修道院(黙想)
 電話 : 03(5706)7355
 FAX : 03(3704)1789
 E-mail : mokusou@carmel-monastery.jp



金曜黙想会

— ラウレンシオ修士 —

Frère Laurent de la Résurrection (1614-1691)

17世紀の30年戦争で負傷、回心の歩みを辿り、
26才でパリでカルメル会に入会。料理、靴作り、
托鉢などの仕事をしながら「神の現存」を体験し、
神との親しい沈黙の語らいの中に生きたカルムの
靈性に触れながら、ご一緒に過ごしましょう。



日時：2013年10月4日(金) 10時～16時

指導：古川利雅師(カルメル会 上野毛教会協力司祭)

場所：カルメル会 上野毛聖テレジア修道院(黙想)

会費：¥3,500— (昼食を含みます)

お申込みは・・・FAX、メール、ハガキにてお願いいたします。
(尚、お問い合わせは、お電話でも承ります。)

158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25
カルメル会 上野毛聖テレジア修道院(黙想)

TEL 03-5706-7355 FAX 03-3704-1789
Eメール mokusou@carmel-monastery.jp





講座のご案内

■場所：カトリック上野毛教会（信徒会館ホール）

■担当：中川博道（カルメル修道会）

■どなたでもいつからでもご参加ください



カルメルの靈性に親しむ

いずれも 金曜日

朝のクラス ≪10:30~12:00≫ 夜のクラス ≪19:15~20:45≫

10月18日
11月15日
12月13日
2014年 2月14日
3月7日

生ける神との出会いを探して

— 靈性神学入門講座 / キリスト教入門講座 —

いずれも 金曜日

朝のクラス ≪10:30~12:00≫ 夜のクラス ≪19:30~21:00≫

9	9月6日	「イエス・キリストに出会う」
10	9月20日	「福音が語るイエス・キリスト」
11	10月11日	「イエス・キリストの自己理解」
12	10月25日	「キリストに近づく」
13	11月8日	「教会：キリストに呼び集められた人々の集まり」(1)
14	11月22日	「教会：キリストに呼び集められた人々の集まり」(2)
15	12月6日	「キリストと共に歩む道」(1)
16	12月20日	「キリストと共に歩む道」(2)

お問い合わせ: carmel-reisei@hotmail.co.jp

2013年 黙想会案内 (宇治カルメル会)

【一般のための黙想】 1泊2日 (午後5時～午後4時)

9月7日(土)～8日(日) 牧者キリスト 今泉健神父
11月2日(土)～3日(日) 信仰と行い 九里彰神父

【聖書深読黙想会】

- 1日黙想 (午前10時～午後4時)

9月14日(土) 九里彰神父
11月30日(土) 九里彰神父

- 水曜の黙想 (午前10時～午後4時)

9月4日(水) キリスト信者の霊的生活のカテキズム 松田浩一神父
10月16日(水) アビラの聖テレジアとイエス 今泉健神父
11月13日(水) キリスト教神秘を祝うカテキズム 松田浩一神父
12月18日(水) クリスマスを迎える心 今泉健神父

- 待降節の黙想 (午後5時～午後4時)

12月14日(土)～12月15日(日) 松田浩一神父
人間となった神の子への信仰

- 聖テレズの黙想 (午後5時～午後4時)

9月30日(月)～10月1日(火) 伊従信子師

カルメル青年黙想会 (午後5時～午後4時)

11月9日(土)～11月10日(日) キリストはあなたを呼んでいる 今泉健神父

【一般のためのカルメルの霊性入門】

10月26日(土)～10月27日(日) (午後5時～午後4時) 松田浩一神父
「テレサ的カルメルの霊性 No.1」

奉獻生活者の黙想 (午後5時～午前9時)

12月27日(金)～1月5日(日) 松田浩一神父

祭日のミサに参加するために

【クリスマス】 チェックイン午後4時以降可、チェックアウト午前11時

12月24日(火)～12月25日(水) {講話なし、各食事つき}

—その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします。—

☆お申し込みは、電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールで お名前と連絡先を御記入の上、お申し込み下さい。お電話は、なるべく午前9時～午後5時の間にお願いいたします。受け付けが休みの場合は、その場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様にお願いいたします。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)
Tel 0774-32-7016, Fax 0774-32-7457
E-Mail:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

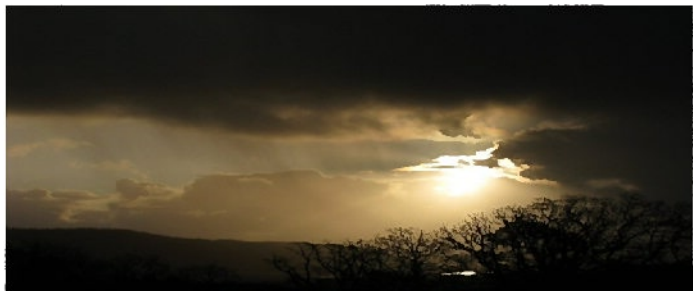
信仰年：聖テレーズの黙想会

テレーズの命日（9月30日）、祝日（10月1日）に
テレーズが信仰のうちに どのように神を探し求めていた
のか ごいっしょに黙想しましょう



時としてわたしの心は
嵐に打ちのめされ、
自分を取り囲む黒い雲以外に
何も存在しないかのように
おもえることもあります。

でも、そこにただ、じっと留まって
信仰の目から
隠されていた見えない光を
見つめ続けることは
大きな幸福なのです。
～テレーズ～



日時： 2013年9月30日（月曜日）5時—10月1日（火曜日）4時

指導： 伊従 信子

場所： カルメル会 聖テレジア宇治修道院（黙想）

611-0022 宇治市木幡御蔵山39-1

持参するもの： 新約聖書、『弱さと神の慈しみ』（サン・パウロ社）

申し込み先： fax 0774-32-7457, 電話 0774-32-7016

e-mail teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

『社会人(働いている人)のための霊的同伴』

— 一日常のキリスト教霊性を求めて —

日々、現代社会で忙しく働いている皆様に、この静かな一時を提供する企画です。この一泊の企画は、キリスト者の霊的・心的修養を目的として、**霊的同伴(スピリチュアル・コーチング)**を中心としながら、皆様のお手伝いをします。

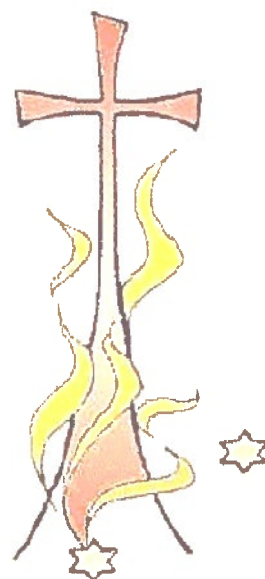
【内容】

- この企画は、個人的霊的修養でもありますので、一般的な講話はありません。
- 各人の信仰からの日常生活を見つめる視点(霊的理解)を促進しますので、この静かな一時の中で短い個別同伴(一人30分)を行います。
- メソッドの一つとしてスピリチュアル・コーチングを適用して、参加者一人ひとりの視点を尊重します。
- キリスト者としてのパーソナルな統合はキリストのうちに行為されるものですので、信仰・希望・愛を培い、この三つの対神徳をベースにおいて行います。

【参加者人数】 6人

【開催日】

- | | | |
|---|-------|-------------------|
| ① | 2013年 | 1月25日(金)～26日(土) |
| ② | | 2月8日(金)～9日(土) |
| ③ | | 3月8日(金)～9日(土) |
| ④ | | 4月12日(金)～13日(土) |
| ⑤ | | 7月12日(金)～13日(土) |
| ⑥ | | 9月6日(金)～7日(土) |
| ⑦ | | 10月11日(金)～12日(土) |
| ⑧ | | 11月22日(金)～23日(土) |
| ⑨ | | 12月6日(金)～7日(土) |
| ⑩ | 2014年 | 1月24日(金)～25日(土) |
| ⑪ | | 2月21日(金)～22日(土) ☆ |
| ⑫ | | 3月28日(金)～29日(土) |
- (毎回金曜日 20時(夕食なし)～土曜日 15時)



【参加費】 各回 5,500円

【霊的同伴】 松田浩一神父(カルメル会士)

【申込み方法】 参加希望者は、前日の木曜日 16:45 迄に、下記の聖テレジア修道院(黙想)へ FAX、はがき、Eメールで申し込んでください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12
 カルメル会宇治聖テレジア修道院(黙想)
 Tel 0774-32-7016、Fax 0774-32-7457
 E-Mail: teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

「立ちどまって、ひとりになって、聴いてみよう！」

…～都会の中の一日常修～（2013）…

(テーマ) 信仰年の課題 「イエス・キリストのセンスを磨く」 …2000年の時を貫いてきた教会の信仰…

「『信仰の門』（使徒言行録 14・27）は常にわたしたちに開かれています。それはわたしたちを神との交わりの生活へと促し、神の教会へと導き入れてくれます。神のことばがのべ伝えられ、わたしたちを造り変える恵みによって心が形づくられるとき、わたしたちはこの門を通ることができます。この門に入るとは、生涯にわたって続く旅に出発することです。

信仰は、それを愛が与えられる経験として生き、恵みと喜びの経験として伝えられることによって、成長します。信仰はわたしたちを豊かにします。」（「信仰の門」より）

今年の信仰年は、わたしたちを「キリストのように考え、キリストのように話し、キリストのように行い、キリストのように愛する」ことへと招いています。この呼びかけに従って生きることは、わたしたちの中にキリストのセンスを磨いていきます。

「一日常修」が、信仰のうちにキリストを生き抜いた先達たちの生き方に学ぶ一助となりますように。

回	月 日	テーマ	
第1回	1月14日(月)	信仰年を生きる「信仰の門」を巡って —イエスご自身の信仰—	中川博道神父(上野毛修道院)
第2回	2月23日(土)	マリアの信仰	Sr.パウリン(宣教カルメル修院)
第3回	3月23日(土)	テレーズの信仰	三上和久神父(三馬修道院)
第4回	4月13日(土)	使徒たちの信仰	今泉健神父(宇治修道院)
第5回	5月11日(土)	初代教会の信仰	松田浩一神父(宇治修道院)
第6回	6月22日(土)	殉教者の信仰	九里彰神父(本部修道院)
第7回	7月13日(土)	イエスの聖テレサの信仰	古川利雅神父(上野毛修道院)
第8回	9月7日(土)	聖家族の信仰 家庭・職場・地域で信仰を生きる	伊従信子師(ノートルダム・ド・ヴィ)
第9回	11月23日(土・祝)	十字架の聖ヨハネの信仰	福田正範神父(上野毛修道院)

- * 時間 AM10:00～PM4:00
- * 場所 カトリック日比野教会(地下鉄・名城線日比野下車徒歩約5分) *聖テレジア幼稚園隣接
- * 参加費 1,000円
- * 持ってくるもの 聖書、筆記用具、ロザリオ、弁当
- * 定員 約30名
- * プログラム
 - 10:00～ 祈り・導入・黙想
 - 10:30～ 講話(1)
 - 黙想・赦しの秘跡または面接
 - 11:50～ 昼の祈り・お告げの祈り
 - 12:15～ 昼食
 - 12:50～ 黙想・赦しの秘跡または面接
 - 13:30～ 講話(2)
 - 14:45～ ミサ
 - 15:30～ 茶話会・分かち合い
 - 16:00～ 終了予定

☞ 申し込みは、下記の住所へハガキか FAX で、氏名・住所・TEL、(所属教会)を記載の上、開催日の3日前までに必着のこと。なお、日比野教会で葬式などがある場合は、中止となりますので、ご了承下さい。

☆ 名古屋カルメル霊性センター

〒456-0062 名古屋市熱田区大宝4-5-17 カルメル会日比野修道院

FAX 052-671-1825

一日常修連絡係 〒465-0058 名古屋市名東区貴船3-2115 小林 厚・晃子

TEL・FAX 052-701-3685

2013年度名古屋聖書深読会

第1回 10月26日(土)

九里彰神父(本部修道院)

- 時間 午前10時～午後4時
- 場所 カトリック日比野教会
地下鉄名城線日比野下車、徒歩約5分 *聖テレジア幼稚園隣接
- 参加費 ￥1000
- 持ち物 聖書・筆記用具・ノート・昼食等

* 事前に「名古屋教区ニュース」でお知らせします。

* 申し込みは、開催日の3日前までに Fax またはハガキで下記へお願いします。信徒の方は、所属教会名もご記載下さい。

* 対象は、信徒、未信徒の別を問いません。キリストの教え(み言葉)に関心のある方なら、どなたでも構いません。

☎ 申し込み先

名古屋カルメル霊性センター

〒456-0062 名古屋市熱田区大宝4-5-17

カルメル会日比野修道院

FAX 052-671-1825

☆ 連絡係

〒465-0058 名古屋市名東区貴船3-2115

小林 厚・晃子

TEL/FAX 052-701-3685

☆霊性センター

カルメルの霊性「祈り」を知るために。

どなたでも気軽にご参加下さい

毎月第一日曜日 三馬教会 聖堂

14:30～講話（カルメル会司祭）

15:30～ミサ（賛歌ラテン語）

☆土曜フレックスタイム静修

御自分の都合に合わせて好きな時間に参加でき、

霊的にだけではなく、心身共にリフレッシュ出来る時

間として 御利用下さい。

毎月第三土曜日 三馬教会 聖堂

13:30～聖書朗読、短い講和

14:30～ベネディクション、聖体顕示

15:30～聖体拝領

16:00～サルヴェレジナ、終了

各合間の時間は、各自自由に黙想しながら祈る時間です

カルメル会三馬修道院 三上和久神父



カルメル霊性センター

〒921-8162

金沢市三馬3丁目324番地

カルメル会 三馬修道院

三上 和久神父迄

Tel. 076-244-7788

聖書深読センターのご案内

- 1 東 京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。
- 2 宇 治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。

通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち2箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

1 朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くB5用紙）を提出。講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解説が冊子になって送られる。

費用：6ヶ月 18,900円（4、7、10、1月に納入） 継続の場合は 16,900円

講師：九里彰師（奇数月） 今泉健師（偶数月）

問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿 2-6-1 新宿住友ビル

私書箱 21号 朝日カルチャーセンター通信講座部

電話 03-3344-2527（直通）

2 ミニ深読

グループで2、3時間かけて聖書深読法の一部を行います。

聖書深読黙想会に参加経験のある方に限ります。

遠方に、参加希望者が多数いる場合には、有光、またはSrパウリーナが指導に行くことも可能です。

問い合わせは「聖書深読センター」事務局 Srパウリーナまでご連絡下さい。

◎ 聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センターにお問い合わせ下さい。



聖書深読センター

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

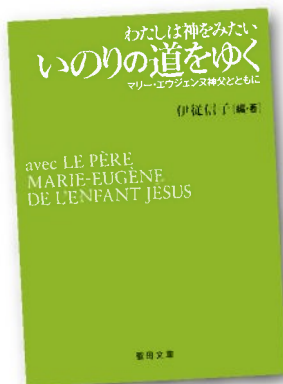
所長：奥村一郎神父 事務局長：今泉健神父 連絡先：Srパウリーナ

TEL 0774-32-7016 FAX 0774-38-2543

Eメール carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp

少しの時間、**新刊案内**
いのりのみ言葉に
耳をかたむけてみませんか

わたしは神をみたい **いのりの道をゆく**
マリー・エウジェンヌ神父とともに



伊従信子編・著

師は、神と親しく生きるように神が多くの人々を呼んでおられること、そして、その人々を神との一致にまで導くように、神が自分を召されたことを自覚していました。ですから、師はその生涯の終わりまで、社会で日々の生活を営むすべてのキリスト信者が聖性に召されていることを強調し、聖性への道を提供する務めを使徒職とする人々の養成を熱く望んでいました。
〔「はじめに」より〕

ISBN978-4-88216-339-8 C0195

268 281頁 定価630円(税込)

▼▼▼こちらもおすすめ!▼▼▼



神と親しく生きる **いのりの道**

幼きイエスのマリー・エウジェンヌ師とともに

R. ドグレール / J. ギシャル 著

伊従信子 訳

現代の狂騒の中で、大切な何かを見失っていないだろうか……真理、善、美、生きる意味、神との関わりを捜し求めている人たちへ送るメッセージ。

ISBN978-4-88216-307-7 C0195

246 207頁 定価525円(税込)

聖母の騎士社 ☎850-0012 長崎市本河内2-2-1
TEL.095-824-2080 FAX.095-823-5340

ご注文・お問い合わせ先



諸所の企画案内



心のいほり 内観黙想センター
真命山 霊性交流センター
リーゼンフーバー神父キリスト教講座
ノートルダム・ド・ヴィ
ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院
サダナ瞑想
CWC (キリスト者婦人の集い)
慈しみ深き会

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。
記載には注意を期しておりますが、
詳細は各問い合わせにご紹介下さい。
よろしくお願い致します。



諸所の黙想企画ご案内

※各黙想内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

心のいほり 内観黙想センター

先の予定表と若干変わっていますので、開始の曜日や時間などにご注意ください。

◎参加費用は、6泊7日ですべてを含み関西地区の会場は6万円、他地区は6万5千円です。

◎Eメール・ファックス・手紙でセンターに問い合わせてください。電話では取り次いでおりません。

申し込みは10日前迄に完了、お願いします。会場予約準備がありますので。

◎572-0001 大阪府寝屋川市成田東町3-27「心のいほり 内観瞑想センター」藤原神父
FAX 072・802・5026 Eメール fujinao1944@nifty.com
<http://www.com-unity.co.jp/naikan> (ホームページ・アドレス)

◎予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送りします。

(★)印の会場では、藤原神父以外の司祭も面接同行する可能性があります。

6泊7日 開始日午後2時より 終了日午後2時まで

2013年予定

- M 3 9/10 (火) -9/16 (月) 宝塚売布・女子御受難会
N 3 9/28 (土) -10/4 (金) 滋賀唐崎・ノートルダム
K 5 10/12 (土) -10/18 (金) 東京・小金井・聖霊会
T 2 10/28 (月) -11/3 (日) 兵庫西宮・女子トラピスチヌ
N 4 11/25 (月) -12/1 (日) 滋賀唐崎・ノートルダム

2014年予定

- K1 1/25 (土) -1/31 (金) 東京・小金井・聖霊会
K2 3/22 (土) -3/28 (金) 東京・小金井・聖霊会
S1 3/30 (日) -4/5 (土) 千葉白子・十字架 イエスベネディクト会
K3 6/14 (土) -6/20 (金) 東京・小金井・聖霊会
T1 7/25 (金) -7/31 (木) 兵庫西宮・女子トラピスチヌ
K4 9/27 (土) -10/3 (金) 東京・小金井・聖霊会

イエス様に祈りを学ぶ

真命山の靈性



祈りの集い（午前10時～午後3時）
年間の一般のテーマ： イエス様に祈りを学ぶ

自然

神はすべてを作り
人の手に委ねられた

陽の昇るところから
陽の沈むところまで

祈り

静けさ

沈黙の中に神の
言葉を聞こう

信仰体験を
分かち

交わり

- 1月10日 ナザレの聖家族の生活における祈りの重要性
- 2月14日 イエスの生涯における祈り
- 3月14日 死を前にしたイエスの祈り
- 4月11日 最後の晩餐におけるイエスの祈り
- 5月9日 イエス・キリストのメシアとしての喜びの賛歌
- 6月13日 いやしの奇跡とかかわるイエスの祈り
- 7月11日 主よ、私たちに祈りを教えてください！
- 8月 休み
- 9月12日 イエスの「大祭司の祈り」（ヨハネ17）
- 10月10日 神との関係における沈黙の大切さ
- 11月14日 イエスと神殿（ルカ2,46 ヨハネ2,21）
- 12月12日 神の「幕屋」であるイエス（ヨハネ1,14）

指導者

フランコ・ソットコルノラ神父
（真命山院長）
ダニエレ サルティ・サルトリ
神父
Sr.マリア デ・ジョウルジ

申し込み先

865-0133
熊本県玉名郡和水町1391-7
真命山諸宗教対話・靈性交流センター
TEL 0968-85-3100
Fax 0968-85-3186
E-mail: shinmeizan@chive.ocn.ne.jp

www.shinmeizan.org

個人またはグループでの黙想会や研修会も歓迎いたします。
（要予約）

●キリスト教入門講座

金曜日 18時45分～20時30分
聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール。
どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本テーマを取り扱います。

●キリスト教理解講座

毎月第1・第3・第5火曜日 18時45分～20時30分
聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール
キリスト教の基礎知識を持っている方。2年間のコース。信仰理解と信仰生活の深まりを目的とし、キリスト教の中心的テーマを探求します。

●土曜アカデミー 以下の土曜日、
9時30分～12時15分、岐部ホール4階404、
各時代の文書を読んで、思想史一般とキリスト教哲学・神学の相互関係を考察します。キリスト教思想史に関心を持っている方、プログラム等に関してはHP(文末)を見て下さい。

2013年度のテーマ:

超越理解と理性の自己発見 — I 古代と中世
「中世：哲学・神学・神秘思想」(9世紀～15世紀)
[初期スコラ学]
10/12,10/19,10/26,11/09

●ミサ

水曜日 17時10分～18時 上智大学内 Kulturl
ハイム1階右小聖堂。どなたでも。但し祝日、8月全体、12月25日は休み。

●黙想

・「会社婦りの黙想」毎月第2・第4火曜日 18時45分～20時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂
どなたでも。但し祝日、8月13日は休み。8月27日は Kulturlハイム聖堂

・「お昼の黙想」毎月第1・第3火曜日 10時40分～12時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂
どなたでも。但し祝日は休み。

・水曜日 18時～18時30分 上智大学内 Kulturl
ハイム1階右、テレジア小聖堂
どなたでも。但し祝日、8月全体、12月25日は休み

・「通う霊操」8月24日(土)～9月1日(日)18時～20時45分 上智大学内 Kulturlハイム聖堂

●祈りの集い

・下記の土曜日 13時30分～16時 上智大学内S.J.ハウス、第5会議室

講話、黙想、ミサがあります。

9月7日、10月12日、11月9日、12月7日

2014年1月11日、2月8日、3月1日

・ロザリオの祈り(同日、ミサに続いて)16時10分～16時50分 上智大学内 Kulturlハイム1階右、小聖堂

●黙想会

[関東] 1泊6,600/6,800円程度。

09月28日(土):10時～29日(日)14時(東村山)

11月16日(土):10時～17日(日)14時(上石神井)

2014年

03月08日(土):10時～9日(日)14時(上石神井)

[関西]

10月5日(土)13時30分～6日(日)15時(宝塚)

●坐禅会

・月曜日 17時20分～20時10分

・木曜日 18時～20時30分

上智大学内 Kulturlハイム1階左の部屋。但し祝日、5月2日、8月全体、12月26日、30日、1月2日は休み
3回坐り、間に講話

●坐禅接心

[秋川神冥窟] 1泊2400円(+暖房費)程度。

9月20日(金)20時30分～24日(火)10時

11月1日(金)20時30分～11月4日(月)13時

●アガペ会

下記の日々に説明会(13時30分)と集い、ミサ(14時～18時)。上智大学内S.J.ハウス、第5会議室

10月20日(日)、2014年1月25日(土)

●クリスマス

クリスマス会

12月14日(土)16時～20時30分。岐部ホール4階、404(予定)。要申し込み。

クリスマスのミサ

12月23日(月)14時～上智大学内 Kulturlハイム聖堂(80人限定)。

リーゼンフーバー神父キリスト教入門・理解講座

リーゼンフーバー神父キリスト教

入門講座 2013年

日時 毎週金曜日

18時45分～20時30分

- 9/06 聖書のイエス像— ヨハネの見たイエス
- 9/13 イエスの復活— 今に生きるイエス
- 9/20 聖霊— 神の愛に導かれる
- 9/27 祈りの本質とさまざまな祈り方— 神と関わる

9/28-29 ●黙想会(東村山)

- 10/4 洗礼と堅信— イエスに結ばれて生きる
- 10/11 教会の成立と意味— イエスを中心に集う
- 10/18 人間としてのイエス— 新しい人間像の基礎づけ
- 10/25 御子としてのイエス— イエスの神との関係

- 11/01 父と子と聖霊— 神の生命に与る
- 11/08 信仰の決断— 支えられて生きる
- 11/15 ミサ祭儀— 神への奉仕と生活の糧
- 11/16-17 ●黙想会(上石神井)
- 11/22 自己実現と神の意志— 生き方の規範
- 11/29 人間の弱さ— 罪とは何か

リーゼンフーバー神父キリスト教

理解講座 2013年

日時 第1・3・5火曜日

18時45分～20時30分

[根本的態度]

- 09/03 有意義に生きる基盤— 信仰と希望
- 09/17 唯一の掟— 愛による完成
- 09/28-29 ●黙想会(東村山)

- 10/01 基本的な徳— 判断力・勇気・節制
- 10/15 共同存在— 共通善・正義・奉仕
- 10/29 個人の道— 自己の課題と聖霊の導き

[日常生活]

- 11/05 対人関係と友愛— 恵みである他者
- 11/16-17 ●黙想会(上石神井)
- 11/19 身体と生命— 性と倫理
- 12/03 家庭と独身生活— 与えられた招きの発見
- 12/14 ◆クリスマス・パーティ(16時ミサ、17時30分パーティ、岐部ホール4F、要申し込み)
- 12/17 仕事と祝い— 能力の活性化と人生の実り
- 12/23 ◆クリスマスのミサ(14時、上智大学内クルトウルハイム2F、80人限定)
- 01/07 困難と苦しみ— 謙遜な自己奉獻と神への信頼

《場所・お問い合わせ》

聖イグナチオ教会(四ツ谷駅前)

信徒会館3階

アルペホール TEL 03・3263・4584

クラス・リーゼンフーバー神父

〒102-8571 千代田区紀尾井町7-1

上智大学SJハウス

電話 03-3238-5124(直通) -5111(伝言)

Fax 03-3238-5056



※リーゼンフーバー神父様HPアドレス

http://www.jesuits.or.jp/~j_riesenhube/

いのちの泉へ（ノートルダム・ド・ヴィ）

- 「いのちの泉へ」
すべての人のための祈りの集い

カルメルの靈性に学びつつ、キリスト者としての靈性を養うための講話と、沈黙の祈りで構成された集いです。カルメルの靈性を、より深めたい方のグループと、若い方、基礎的な信仰を学びたい方のグループがあります

2013年
9月14日(土) リジューのテレーズ
10月12日(土) アヴィラの聖テレサ

講話 伊従 信子
午後2時～午後5時30分位まで、
講話、祈り、分かち合い。
参加費 200円

申し込み・お問い合わせ
ノートルダム・ド・ヴィ
〒177-0044
練馬区上石神井4-3
2-35

TEL(03)・3594・2247
FAX(03)・3594・2254
E-mail notredamedevic.japan@gmail.com
ホームページ
<http://www.ndv-jp.org/>



カルメル会の靈性を受け継ぐノートルダム・ド・ヴィ(いのちの聖母会)は、現代社会のあらゆる場で社会人として働きながら、神への全き奉獻を通して、祈りと活動の一致を生きることを、その精神・理想としています。

ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院

- ◎ 所在地：〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎 1丁目 3-1
Tel：077-579-7580 Fax：077-579-3804
E-メール：karainorind92@mbe.nifty.com
- ◎ 交通：JR京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。琵琶湖の方へ徒歩 約13分
- ◎ 日程：
 - A. 8日間の個人指導による黙想
初日は、17時のミサで始まり、最終日は昼食で終わります。
② 8月14日(水)～22日(木) ③ 9月27日(金)～10月5日(土)
④ 12月27日(金)～2014年1月4日(土)
 - B. 祈りの体験：週末3日間 (金曜日の夕食～日曜日の昼食)
【神との親しさの中で日常を生きるために】
⑤ 7月12日(金)～14日(日)
⑥ 11月1日(金)～3日(日) ⑦ 11月29日(金)～12月1日(日)
- ◎ 対象：信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。
- ◎ 靈的同伴者： 司祭、ノートルダム教育修道女会会員、その他
- ◎ 申込み：1) 名前 2) 住所 3) 電話番号 4) 希望日程(番号) を書いて
郵送、または、Faxで「黙想係」松本佳子 へ申し込んでください。
唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。
いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。先着順11名です。
- ◎ その他： 司祭同伴の黙想会やグループ研修会のために修道院をご利用なされたい方はご相談ください。(但し、上記の日程と8月1日～8月9日を除きます。)

主に選ばれる恵み

すぐに網を捨てて従った

2013年第二回 召命黙想会

日時： **9月14日(土) 15:00～**
15日(日) 15:30まで

場所： ノートルダム唐崎修道院
(JR京都駅から30分)

指導： 山内 十束 神父 (御受難会)

対象： 独身女性信徒

費用： 2,000円

締切： 2013年 9月 8日 (日)

＜申込み・問合せ＞

〒520-0106 滋賀県大津市唐崎 1-3-1
ノートルダム教育修道女会

Sr. 桂川

Tel 077-579-2884 Fax 077-579-3804

Email karainorind92@mbe.nifty.com

サダナ瞑想 ～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

★申込み受付・開始日の8日前で締切ります

詳細、補充情報はホームページをご覧ください。 URL : <http://sadhana.jesuits.or.jp/>

コース	日時<指導者>	指導者	開催場所	申込み
入門C	9/8(日) 9:30-17:00	Fr植栗	上石神井黙想の家	若山美知子※ Tel/fax 03-5802-3844
サダナII	9/12(木)17:30- 9/16(月)16:00	Fr植栗	沖縄・聖クララ修道院 Tel:098-945-8649 Fax:098-945-8720	申込み: Sr 比嘉
サダナI	9/20(金)17:30- 9/23(月)16:00	Fr植栗 FrA.マルコ	シャルトル聖パウロ会盛岡修道院 (盛岡市) 申込み: 伊藤律子 Tel:090-4478-0088	
入門A	10/6(日) 9:30-17:00	Fr植栗	援助修道会リヒト宣教室 (市ヶ谷)	若山美知子※
サダナII	10/10(木)17:30 10/14(月)16:00	Fr ラフオント	女子御受難会修道院 (宝塚市)	大倉本子
サダナI	10/11(金)17:30- 10/14(月)昼食	Fr植栗	熊本・真命山(玉名郡和水町) 申込み: 壽賀佳子 Tel:099-282-2289 携帯:080-6400-0610	
サダナI	10/31(金)9:30- 11/3(日)14:00	Fr ラフオント	三位一体聖体宣教「女 東京修道院(東村山市)	若山美知子※
入門B	11/10(日) 9:30-17:00	Fr植栗	上石神井黙想の家	上石神井黙想の家
日帰り	11/17(日) 9:30-17:00	Fr植栗	援助修道会リヒト宣教室 (市ヶ谷)	若山美知子※
自己を知る *1 泊2日 ×2= 合計4泊	2014年 1/11(土)9:30- 1/12(日)17:00 1/18(土)9:30- 1/19(日)17:00	Fr植栗	小金井聖霊修道院	若山美知子※

※不在の場合は、渡辺由子 Tel & Fax : 042-325-7554

(注) 日帰り=サダナIを終えた方

*サダナI = 体の営みと想像とを生かして祈りを深め、「神との出会い」と「心の解放」をめざす。

*サダナII = Iをいっそう深める。身体・感情・想像・自分史が、神との交わりのもと統合される。



CWC (キリスト者婦人の集い)

カルメルの霊性に学ぶ

『完徳の道』

場所：真生会館 10:30～12:00

9月10日（火）『完徳の道』第36～第37章

11月12日、12月12日（木）



東京都新宿区信濃町33番地4 真生会館ビル

TEL：03-3351-7121（受付代表）

<http://www.catholic-shinseikaikan.or.jp/>

九里彰神父（カルメル会日本管区長）

慈しみ深き会

祈り：講話と実践

沈黙の内に神を求めて

—観想の祈りへの道—

場所：イグナチオ教会信徒会館3Fアルペホール 14:00～16:00
7月からは「岐部ホール」。12月のみマリア聖堂（ミサ有り）

9月11日（水）『靈魂の城』第5の住居の第3章

11月13日、12月11日

アビラの聖テレジアの「靈魂の城」を読んだ後、一緒に沈黙で祈ります

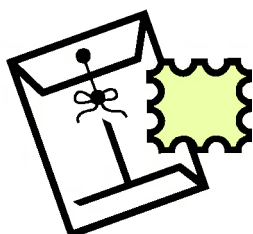
*参加費無料（献金歓迎）

*問い合わせ先：042-473-6287 篠原

※各黙想会内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

霊性センターニュース

* 年間購読(郵送)のご案内 *



来年(2014年)1月から12月までの『霊性センターニュース』
年間購読(郵送)のお申し込みを受け付けいたします。

年間購読の場合の献金は、2500円程度をお願い致します。
これには11回分の送料(8月休刊)が含まれます。

ご郵送は、基本的に申し込み翌月から12月までとなります。

例：6月申込の場合は、7月号～12月号(但し8月号休刊を除きます)
この場合の献金については、ご希望の月数×250円程度となります。

申込先：下記の霊性センターニュース事務局へ、
氏名、郵便番号・住所、電話、Fax等をご記入の上、
郵送か下記のe-mailでお申し込みください。

《郵送でのお申し込み》

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25
カルメル会上野毛修道院 「霊性センター事務局」

《e-mailでのお申し込み》

tokyo@carmel-monastery.jp

*何かご質問等があれば、下記にご連絡ください。

Tel: 03-3704-2171

Fax: 03-3704-1789

『霊性センターニュース』お持ち帰りの方へ

一冊 100 円程度の献金をお願い致します！

「霊性センターへの献金」のお願い

「霊性センターニュース」は、現在、上野毛霊性センターで編集、印刷、製本、発送等を行っておりますが、経費はすべてカルメル会で負担しております。読者の皆様のご理解とご協力をいただければ、幸いです。

献金される方は、下記の口座へお振り込みください。

郵便番号口座： 00110-4-297250

加入者名： カルメル霊性センターニュース

なお通信欄へは「献金」とご記入ください。

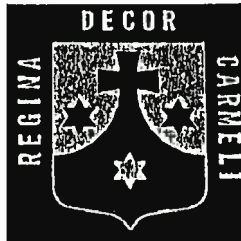


編集後記

今年の夏は、猛暑が続き、最高気温が 40 度を越すところも出るなど、記録的な暑さとなった。熱中症で亡くなる人の数も多く、水の補給とエアコンの使用は、日本の夏を生き延びるために不可欠となった感がある。

ところで、地球温暖化、異常気象と叫ばれて久しい。これらはみな、人間が引き起こしているのだとすれば、まさにグローバルな対策、各国の対話、一致協力が求められてくる。その時、各国は、個人と個人の関わりのように、相手の国の尊厳を認め、心からの敬意をもって、誠意ある態度で接し合うべきであろう。

個人と個人の関係において、優越感や劣等感トラブルを引き起こしこそはすれ、問題の解決にはならない。その意味で、個人のレベルだけでなく、国家のレベルでも、優越感や劣等感に支配されている意識から解放されていく必要がある。すべてのものや人、国や文化を差別することなく受け入れ、無限に包み込んでいくあたたかな心、それは、キリストの心であり、御父の心であろう。グローバル化が進む現代において、まことの人間、まことの神であるキリストの言葉に耳を傾け、表面的な平和ではなく、人類共同体のまことの平和を実現していこうとする人が、日本の社会にも増えていきますように。(P.九里)



.....製本／発送のご協力お願い.....

「霊性センターニュース」の製本／発送は、基本的に[毎月最終週の火曜日](#)に行われます。作業はホッチキス綴じと購入者様への発送のみです。皆様のご協力をお待ちしております。初めての方、不定期参加の方も、大歓迎です。お茶とお菓子の時間もありますよ♪

「10月号」製本日

9月24日(火) 上野毛教会信徒会館ホール1階
午後1時半頃から～

※参加ご希望の方は、念のため、製本日をご確認下さい。霊性センター係

TEL 03・3704・2171